

2023年3月22日  
株式会社シーエス・ワンテン  
株式会社日本ケーブルテレビジョン

2022年度 CNNj 番組審議会議事録

1. 開催年月日：2023年3月22日
2. 開催方法：ハイブリッド開催
3. 参加者 審議委員総 8名  
参加委員数 8名

(委員)

- 委員長 小池 生夫 (慶應義塾大学および明海大学名誉教授・言語学博士)  
委員 大宅 映子 (評論家)  
委員 石川 次郎 (編集者 (株)ジェイアイ社長)  
委員 吉永 みち子 (ノンフィクション作家)  
委員 小西 克哉 (キャスター)  
委員 稲生 衣代 (青山学院大学教授)  
委員 国府 弘子 (ピアニスト・作編曲家)  
委員 パトリック・ハーラン (バックン) (タレント)

(衛星基幹放送事業者：(株)シーエス・ワンテン)

代表取締役社長 福田 泉

(番組供給事業者：(株)日本ケーブルテレビジョン)

代表取締役社長 川島 保男

取締役 (メディアビジネス局担当) 山本 陽一

メディアビジネス局長 鈴木 隆泰

メディアビジネス局メディアビジネス戦略部編成・運行担当部長 村上 聡

総務局長 鈴木 正市

人事・総務部長 城戸崎 ゆり

#### 4. 審議番組

(1) 「特別番組：車両停止における人種差別」 日本語字幕版 (45分)

CNN Special Report : TRAFFIC STOP Dangerous Encounters

放送日時 : 2022年7月14日(木) 22時~23時

アメリカでは、黒人の運転手が白人の2倍、警官に車を止められ、4倍も職務質問を受けている。恐怖や精神的苦痛など、暴行を受けた被害者、遺族らにその思いを取材。人種的偏見による車両停止の現状に迫る。

##### <委員意見>

\*人種差別の話は聞いていたが、想像よりも遥かにすごく、内容は興味深かった。映像を撮られていると分かっているながらも、酷いケガを負わせるほどの暴力をふるう様子から、カメラが回っていなければ、さぞかし暴行は激しかったであろうと想像できる。日本語タイトル「車両停止における人種差別」、正にその通りの内容ではあるが、これから見る人に、「これはおもしろいかもしれない」、と思わせるためには、魅力的なタイトルが必要である。

\*アメリカの警察官が装着しているボディカメラの映像と CNN の取材内容を上手く織り交ぜて編集されていて、とても迫力があつた。ボディカメラは警察が使い方をコントロールできるはずだが、映像を自由に使えるとは、さすがアメリカだと感じた。YouTube でも大量にボディカメラのショッキングな映像が流出しているが、怖くて見られ他内容ではない。CNN はボディカメラの映像をうまく使用していて、新鮮さを感じた。

\*迫力のある恐ろしさを感じた。内容を分かっている映像で見ると、あらためてアメリカが怖い国だと思った。どのように映像を撮っているのか、撮り続けている間に何とか暴行を阻止できなかったのか、仮に裁判になった場合に、CNN の放送素材はどのように使用されるのか、等の疑問を感じた。白人警官の黒人に対する過激な反応や恐怖心の背景を知れたら更に良かった。「Black Lives Matter」運動から時間が経過しているのに、まだ差別が続いていることを残念に思うが、州によって人権の扱いも異なるので、今後どのように是正されていくのか、続編を期待したい。

\*車載カメラやボディカメラの映像は迫力があつた。黒人の苦しそうな表情がよく撮れていた。番組前半は数字が多く日本の視聴者には難しかったと思うが、社会的犯罪には数字が必要だ。アメリカでは過激な映像は幾らでもあるが、それをある程度抑制してあり、よく編集されている内容だった。後半は、警察改革について、警官の暴走をどのように制止できるのか、制度的な試みをケーススタディとして紹介していて分かりやすかった。レーガン時代から始まった黒人犯罪者の大量投獄、そして犯罪者から徴収する罰則金で財政が潤い、黒人は奴隷化し下層階級と見なされてきた。アメリカ合衆国憲法修正第 13 条では、黒人奴隷の解放を謳っているが、犯罪者は除くとなっている。つまり犯罪を起こした黒人は奴隷であるということだ。しかし、その事を州レベルで改善していく取り組みも紹介されていた。CNN

では過去に「Racial Profiling」についてドキュメンタリーを放送したことがあるが、「Racial Profiling」は米国のみならず全世界で行われている。日本でも数年前に中東系の人の職務質問が行われ問題視されたが、日本のメディアはこの事実を取り上げなかった。今後、人種差別は日本でも広がっていき、深刻な話になるだろう。他人ごとではないと感じた。

\* 人種差別の背景が理解しにくいことが多い中、今回テーマを「車両停止」の一点に絞ったことが効果的だった。徹底的に調査し、問題の核心に迫る内容だった。最新のデータや専門家の意見を取り上げていたこともあり、車の整備不良を指摘しながら、実は銃や薬物の捜査目的で車を停止させる「口実停止」の実態が理解できた。最後に、対策を講じた事例を紹介していたため、今後の道筋がみえた。これまで海外取材でも活躍してきたサラ・シドナー記者であるが、今回の特番で国内問題についても果敢に取材し、国内外の問題に精通した有能なジャーナリストが CNN にいることが改めて確認できた。

\* ボディカメラの映像が衝撃的でリアリティを伝えてくれた。警察側の話をもっと聞きたかったが、あの映像が全てを伝えていると感じた。銃、貧富の格差や薬物等の色々なテーマを凝縮して「車両停止」の中に詰め込んでいる。

\* アメリカ合衆国憲法修正第 13 条は、黒人でも白人でも強制労働をさせて良いという意味である。タイトルの「車両停止」は日本語だと一時停止のイメージだが、そうではなく、パトカーに止められて危険に遭遇することを指しているのので、タイトル付けの工夫が必要である。内容は大変おもしろかった。数字のデータが多かったが、根拠となる母数が不明で曖昧である。

\* ダイナミックなシーンが次々と出てきたが、切り替えが早くてついていけない場面があった。数字による統計的な説得力を持たせた内容が良かった。日本のテレビでは見られない、するどさやむごさをそのまま引き出していてインパクトのある番組である。半世紀前とは違って、今や黒人の議員や大統領までいる時代にもかかわらず、アメリカ社会が変わっていない現実を突きつけられた。

## (2) 「GPS 特番：保守化した米最高裁」 日本語同通版 (45 分)

A Fareed Zakaria Special : SUPREME POWER Inside the Highest Court in the Land

放送日時 : 2022 年 11 月 28 日 (月) 11 時～

9 人中 6 人が保守派判事となった現在の米最高裁。人工妊娠中絶を女性の権利と認めた過去の判決を覆す判断を示し、衝撃が広がっている。信頼揺らぐ米最高裁の現状を、アメリカで最も信頼できる論客の一人で、CNN 週末のニュース解説番組「GPS」の司会、ファリード・ザカリアが検証する

## <委員意見>

\* アメリカの最高裁が保守化していることは、トランプ前大統領がアメリカを分断した結果でもある。前の人種差別の番組内容と同様に、アメリカが変わってきているように見えて、実は何も変わっていない。女性や黒人の判事が誕生し、ニュートラルで偏らない裁判に変化していくはずが、結果的にはそうならなかった。就任した判事たちはどの程度の意識で引き受けたのか。最高権力者でもある最高裁の判事たちの自覚も欠けているが、有権者一人ひとりが変えて行く意識を持たないと何も変わらないだろう。

\* 人工中絶権の合憲性を認めない判決や、銃規制を違憲とする最高裁の判決はアメリカ世論とかけ離れている。同時通訳のナレーションが難しく理解できなかった。日本語字幕であればもう少し理解できたと思う。

\* 番組内容が難しければ同時通訳も難しくなる。内容が理解しにくい、聞き取りにくいことは、番組審議会発足当初からの課題である。今回も日本語字幕があれば理解しやすかったと感じた。トランプ前大統領以降、最高裁は共和党で保守派が過半数を占め、判事は終身制度ということもあり、今後は今までの判決が次々と覆されていくのではないかと危惧してしまう。日本では最高裁=最終判断のイメージがある。最高裁が判断できないことは国会に戻すという現状にも暗澹たる気持ちだ。

\* レベルが高いレポートで、同時通訳だけでは日本の視聴者に難しく理解できないだろう。日本語字幕対応の方が良かったのではないかな。通訳者は優秀だが、アメリカの政治専門家でないと正確な通訳ができない。番組内で「Independent Legislature」を「独立した州議会」と訳していたが、文脈から訳さないと伝わらず、「州議会の優越性」と訳した方が分かりやすかった。ファリード・ザカリアの番組はレベルが高いため、CNNjで特番を組むなどの対応をしないと通訳だけでは分かりにくい。アメリカ人にとって政治と司法は身近なニュースだが、日本人は最高裁判事の名前も知らない人が多く、アメリカ人との知識ギャップが激しい。司法は象徴的存在で国民の理解や支援が必要だが、今の最高裁は民主的ではなく、国民の信頼も信用も失っている。今後判事の定員を増やす案も出ているが、アメリカ文化社会が分断につながる可能性があることを認識した。

\* 過去の事例を多く取り上げることで、今の最高裁の問題が浮き彫りになった。最高裁の歴史を振り返り、現在の問題に踏み込む手法は面白く、歴史から学ぶことができた。最後に海外の制度を紹介していたので、海外の最高裁の事例を取り上げる続編も見たいと思った。内容が濃く充実した番組だった。

\* 内容が大変難しかった。内容をネットで調べて判例を読むことで、自分自身が成長できる機会を得られた。ファリード・ザカリアに詳しい解説をしてもらいたかった。日本語字幕で見たかった。また、以前テレビ朝日の「CNN デイウォッチ」のキャスターに抜擢してもらったのは、一般視聴者の代表として、他のキャスターやゲストに質問を投げかける役目が自分にあったのだと理解できた。

\* 素晴らしい作品だが、同時通訳だけでは理解しにくい点は残念である。ファリード・ザ

キャリアの見せ方が素晴らしいドキュメンタリーで、「GPS 特番」というブランドが確立している。ナレーションが多い映像で、ズームや引きのタイミングが絶妙だ。この内容が日本語で表現できなくて大変残念だ。「Federalist Society」などの大事な情報も満載だが、アメリカ最高裁の歴史を知らないと理解できないだろう。この特番の前後にアメリカ最高裁について予習や復習の番組があれば理解しやすいのではないだろうか。

\* アメリカと日本の最高裁の違いが良く分かる番組だった。アメリカの判事一人ひとりの意見や経験を生々しく取りあげているが、日本では判事を投票する際に、判事個人に関する情報を知ることは無い。また、判事が周りの政治家、議員や大衆に個人的にアピールすることも無いので、相当な違いがあることを感じた。

5 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

ローカライズの手法について、引き続き検討を重ねる

6. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2023 年 5 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上